福岡市立こども病院
地域医療連携室ニュースレター
Newsletter
Vol. 14
2022年10月秋号

新設

こどもアレルギーセンターを設置しました！

アレルギー疾患は、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻結膜炎、花粉症など多岐にわたり、国民の半数が何らかのアレルギー疾患に罹患しているといわれています。また、同一患者さんに複数のアレルギー疾患が合併する頻度も高いことも特徴です。

「アレルギーマーチ」という言葉に代表されるように、アレルギー疾患は体質が大きく関わり、まるでマーチを行進するが如く、一人の患者さんが次々と様々なアレルギー疾患を発症、合併していきます。

一方で、アレルギー疾患に関わる診療科は、アレルギー科、皮膚科、耳鼻いんこう科、眼科など多岐にわたり、どの診療科に紹介したら良いのか迷うことも少なくありません。「こどもアレルギーセンター」は、蕁麻疹などどの診療科に紹介したら良いか迷う患者さんや、アトピー性皮膚炎＋食物アレルギーなど複数の診療科にまたがるアレルギー疾患を合併している患者さんの紹介窓口となり、かかりつけ医の先生方と連携を取りながら、診療科の垣根を越えた包括的かつ専門性の高い総合アレルギー診療を提供することを目的としています。

乳幼児から「湿疹 ⇒ アトピー性皮膚炎 ⇒ 食物アレルギー ⇒ 気管支喘息・アレルギー性鼻結膜炎・花粉症」と、成長とともに様々なアレルギー疾患を発症・合併していくアレルギーマーチの進行を食い止めるには、乳児期早期からの環境整備、スキンケア及び食事指導が必要です。また、アレルギー疾患の治療薬には吸入薬・軟膏・点鼻薬・点眼薬等の外用薬が多く、正しく使用しないと十分な効果を得られないため、使用法についての十分な指導も必要です。

「こどもアレルギーセンター」では、日本小児臨床アレルギー学会認定 小児アレルギーエデュケーター（PAE）、日本アレルギー疾患療養指導士認定機構認定 アレルギー疾患療養指導士（CAI）の資格を持つ高いレベルの知識・技術を有した看護師・薬剤師・管理栄養士等のメディカルスタッフが複数在籍しており、きめ細やかな患者指導も提供致します。

御紹介にあたってはこれまで通り診療科宛で構いませんが、どの科に紹介したら良いか迷われる場合は「こどもアレルギーセンター」宛に紹介状を一通作成して頂ければ、センター内で情報を共有し適切な診療科、メディカルスタッフへ繋げさせて頂きます。食物経口負荷試験やアトピー性皮膚炎の治療、舌下免疫療法の導入など、診断・治療目的はもちろん吸入・軟膏等の外用薬指導目的でも御紹介頂けると幸いです。当院でかかりつけ医と連携し介入するとともに、御紹介頂いた問題点が解決したのちは御紹介元を受診して頂くように致します。

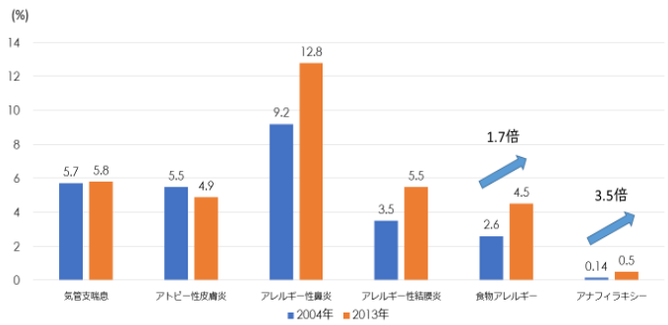
【 診 療 方 針 】

こどもアレルギーセンターは、アレルギー・呼吸器科、皮膚科、耳鼻いんこう科、眼科、総合診療科、小児感染免疫科、新生児科の医師、小児アレルギーエデュケーター若しくはアレルギー疾患療養指導士の資格を有するメディカルスタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士）により構成され、患者にとって「最も生活の質に関与し、活動性の高いアレルギー疾患」の専門領域の医師が中心外来主治医となります。

さらに合併する他のアレルギー疾患の評価・治療の際に、こどもアレルギーセンターを通して他科の医師と連携をとることにより、臓器横断的な臨床を実践して参ります。

ワクチン等の日常診療については、引き続きかかりつけ医での診療継続をお願い致します。

日本全国の児童生徒全体のアレルギー疾患有症率



文部科学省「学校生活における健康管理に関する調査」より

【 診 療 内 容 】

(1)診断
呼吸機能検査、呼気NO濃度、呼吸抵抗検査、気道過敏性検査、皮膚検査（プリックテスト、パッチテスト）、食物経口負荷試験など

(2)治療
アレルゲン特異的免疫療法（舌下・皮下）、抗喘息薬（吸入ステロイド薬、長時間作用性β2刺激薬など）、ステロイド外用薬、紫外線治療、免疫抑制外用薬、生物学的製剤など

(3)アレルギー看護外来
小児アレルギーエデュケーターの資格を有する小児看護専門看護師等による療養生活支援
- 子どもの発達段階に応じた病気の説明
- アトピー性皮膚炎の皮膚評価、ケア計画立案、スキンケア指導（洗浄方法、軟膏塗布方法）
- 吸入の意味付け、吸入手技確認
- アレルギー症状誘発時のエピペンを含む対応指導　など

こどもアレルギーセンター





センター長　手塚純一郎　　副センター長　工藤恭子

福岡市立こども病院
地域医療連携室ニュースレター
Newsletter Vol. 14
2022年10月秋号

☆診療体制のご紹介☆

〇外来診療担当医表（令和4年10月）

添付の別紙をご参照ください。また、下記URLからもご覧いただけます。
https://childhp.fcho.jp/files/uploads/外来診療担当医表（令和4年10月）.pdf

☆地域別紹介患者統計（2022年7月～9月）☆

今夏、これまでになく大きな流行となった新型コロナ第7波も、ようやく収束傾向となりました。
登録医の先生方もさぞかし対応に苦慮されたことと存じます。そのような中、多くの患者さんをご紹介いただき、有り難く感謝申し上げます。
今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

地域医療連携室・副室長　加藤秀幸

地　区	7月	8月	9月	地　区	7月	8月	9月
福岡市医師会地区	525	467	447	糸島医師会地区	22	19	11
東区	254	241	231	粕屋医師会地区	133	123	136
博多区	49	34	46	宗像医師会地区	36	34	46
中央区	69	55	51	筑紫医師会地区	55	60	66
南区	40	27	27	その他福岡県内	49	48	51
城南区	19	23	12	九州（福岡県外）	156	208	137
早良区	56	60	46	その他（九州外）	23	51	58
西区	38	27	34	合計	999	1,010	952

☆カンファレンス・研修会のご案内☆

〇第339回こども病院カンファレンス
WEB開催（オンデマンド配信）＊配信期間2022年10月14日～10月31日
・「こどもの皮膚感染症クイズ」 演者：皮膚科：工藤　恭子
・「当院に入院した新型コロナウイルス感染症患者の検討」 演者：小児感染免疫科：朴　崇娟

〇第28回福岡市立こども病院胎児心エコーカンファレンス
WEB開催（オンデマンド配信）　＊配信期間：2022年10月27日～

1） 胎児心エコー外来新患症例の紹介
2） 症例提示1「心臓内腫瘍の1例」
3） 症例提示2「生後に外科的治療介入が不要だった胎児左室低形成・大動脈縮窄症の一例」
4） 専門医からのアドバイス「総肺静脈還流異常症～スクリーニングから診断まで～」

福岡市立こども病院胎児心エコーカンファレンスのホームページにアップしております。
URL：http://fukkuokataiji.kenkyuukai.jp/

☆連携室からのご案内☆

当日の診察・入院の依頼は医師間での連絡をお願いしております。地域医療連携室へご連絡ください。
当日の担当医へ電話をお繋ぎいたします。

福岡市立こども病院　地域医療連携室　webサイトはこちら

診療情報提供書を緊急にFAXする場合は下記の番号をご利用下さい
・地域医療連携室（平日時間内の対応）　FAX　092-692-3318
・救急事務室（時間外・土日の対応）　FAX　092-692-3369

ご意見・お問い合わせは
地域医療連携室（担当：馬場、寺本）
までお願いいたします
TEL：092-692-3316
Mail：renkei.k@fcho.jp